

十人十色の、ミライを咲かせる

2023 神奈川県公立高校入試 問題分析資料

さくら個別指導塾

2023 英語-①

- ・昨年から大きな変化は見られなかった。問6長文読解の語数が減ったり、問題形式に微妙に変化を加えてきたりと、難易度の微調整を行っている印象。
- ・読まなければならない英文は少し減ったものの、スピーディに解いていく必要があるのは変わらず。英文を読み慣れることを目指そう。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 リスニング	基本的に昨年の傾向を踏襲しているが、(ウ)は単語を選ぶ問題から語句や文を選ぶ問題に変化した。 スピーチの流れをきちんと追えていないと答えられない問題で、昨年に比べやや難しくなった。とはいえ、基本的な聞く力があれば解ける問題だった。	若干難しくはなったものの、超難問というわけではない。あくまでも基本レベルの聞く力が問われるので、常日頃から英文を聞く機会を設け、実力をつけよう。
問2 適語補充	昨年は長めの対話文の形で出題された適語補充問題が単文の形に変化した。 全体的な文字数調整の影響のためと思われる。	選択式の問題であるため、スペルを覚えきれていなくても答えることはできる。 まずは単語の意味と読み方をおさえていこう。
問3 適語選択	おそらく問2が単文の形式になったことに連動して、こちらは単文から一対の対話文の形に変化した。 (ア)は過去形と現在完了形の選択になるが、やや引っ掛け問題的な出題だった。 (エ)は前置詞+Vingの形で、中2内容の応用や中3内容が問われる傾向は変わらず。	神奈川県は他県に比べてやや難しくめで、この傾向は今後も続くものと思われる。応用的な部分もおさえておこう。
問4 語順整序	例年同様、一語不要語が含まれた語順整序問題。助動詞を含んだ関係代名詞の用法が問われた(ア)やbe afraid of Vingの形を問われた(ウ)など、これまで通り難しめの問題だった。	中3後半の単元から出題されることの多い大問。中学全体の文法理解が問われるので、しっかりと準備していこう。

2023 英語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
大問5 条件作文	英作文問題。例年通り疑問詞を使った文が出題されたが、今年は間接疑問文だった。ヒントは対話文や〈条件〉のなかに比較的わかりやすく現れていたもので、やや易しかった印象。	大きな変更なく、例年疑問詞を使った文の基本的な形を問う問題が出題されている。教科書やテキストの基本文は書けるようにしておこう。
大問6-8 長文	<p>問6 AIについての英語のスピーチを読む問題。昨年に比べ語数が100語程度減り、解くのにかかる時間は短くなった。一方で、(ア)が空所に合う文を選ぶ問題から文章の内容に合うグラフを選ぶ問題に変化するなど、問はやや難しくなった印象。全体としては例年並みの難易度といったところか。</p> <p>問7 英語のチャットのやりとりと英文のリストから行くべき店を選ぶ(ア)と、大学入試共通テストを意識したような形式の、対話文とポスターから必要な情報を拾いTo doリストを作る(イ)という出題。考慮すべき情報量が多く、拾い読みではミス危険がある問題となっている。</p> <p>問8 国産米の消費量に関する長めの対話文。こちらも、昨年よりやや短くなったが、本文の内容に合うグラフを選ぶ問題(ア)は、読み取ったことをもとに簡単な計算をする必要がある問題で、昨年よりやや難しかった。英語に限らず、問題中の表やグラフの読み取りは入試の必須スキルなので、大まかに割合を捉えられるよう、日頃から意識しよう。</p>	<p>語数が減り、時間的には余裕ができたが、問題はやや難しくなり、結果として昨年と同程度の難易度だった。極端に長い文章が出題されなくても、手早く必要な情報をつかんでいくことが求められるのは同じ。</p> <p>他県の入試にも触れ、英文を読むことに慣れていこう。英文をスピーディに読みこなす力が何よりも大事。</p> <p>長文読解問題全体に言えることだが、現実の社会的な変化・問題が英文に反映されることはよくある。日頃からそうした動向に関心を持っておくことで、長い英文を読む際にも内容を推測しながらスピーディに読めるようになる。意識しておこう。</p>

2023 数学-①

- ・出題傾向や問題数、出題の形式に大きな変化はなかった。
- ・設問数は1問増えたものの、全体のボリュームは昨年と同じくらいであった。全体的に、過去に出題された類題が目立った。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 計算	<p>(ア)~(オ)の5問の計算問題で、問題数は変わらず。</p> <p>変更点は、昨年度には出題されなかった単項式の乗除計算が出題されたことだが、5問全て過去に出題された計算問題と同様の問題であった。</p>	<p>計算の出題パターンはほぼ過去問通りの出題となっている。</p> <p>毎年正答率の高い問題であるので、正確に答えを出す練習が必要。特に計算式の中では符号のミスをしやすい減法が多いので、注意。</p>
問2 小問集合	<p>昨年は(ア)で連立方程式が出題されたが、今年は例年通りの因数分解の問題になった。</p> <p>(イ)と(ウ)は例年通り2次方程式と変化の割合の出題。</p> <p>(エ)では方程式の文章題が出題された。3桁の自然数の各位を定めるもので、式を作り計算するのに時間を要する。</p> <p>(オ)は2020年度入試の類題であった。</p>	<p>(ア)では連立方程式か因数分解か、どちらが出題されても解けるよう計算力をつけておく。</p> <p>2次方程式や変化の割合など、毎年傾向がほとんど変わらないものも確実に解けるよう訓練する。</p> <p>その他の問題も過去に出題されており、かつ全国入試ではよく出題されるオーソドックスな問題なので、様々な基礎的な問題に取り組んでいく。</p>

2023 数学-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
<p>問3 証明と資料の活用など</p>	<p>証明問題では今年も相似の証明で、例年、円周角の定理を使っているものが出題されていたが、今年も中2の範囲である錯角や同位角を問うものであった。</p> <p>(イ)では昨年度から単元に追加された箱ひげ図の問題が出題された。</p> <p>例年、問3で出題されてきた資料の活用に関する問題は、選択肢を吟味するのに時間のかかるものであったが、今年もそれほど難易度の高いものではなかった。</p> <p>(ウ)では時間と移動距離を1次関数のグラフにした問題であった。過去にも出題されたことはあるが、グラフを書いて求める必要があり思考力が問われた。</p>	<p>証明問題は、合同でも相似でも答えられるように練習しておく。</p> <p>資料の活用に関連する問題は、ヒストグラムでも箱ひげ図でも読み取りができるよう、練習しておく。</p> <p>図形は難易度の高い問題が出題されやすいが、円周角の定理を使う問題には慣れておくと、証明問題でも対応しやすい。</p>

2023 数学-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 関数	<p>例年通りの関数の問題。</p> <p>(イ)では例年、線分の長さを比で表したり、図形の性質を使って座標を求めたりするものであったが、今年は図形を使わずグラフの式を1つずつ求めていくものであった。計算量が多いので時間配分に注意したいところ。(ウ)では今年も難易度の高い問題が出題された。</p>	<p>座標を導くまでの手順がある程度パターン化されている。そのパターンを身につけるため、過去問に触れていく。</p> <p>比や図形的性質を使って座標を求める訓練、座標が分数になっても処理できるような計算力を身に付けていく必要がある。</p>
問5 確率	<p>昨年同様、確率の問題が出題された。</p> <p>過去にはルールが複雑な試行が出題されてきたが、今回はルールの読み取りはしやすい問題であった。正しく数え上げる必要があるが、昨年よりは解きやすくなっていた。</p>	<p>単純にパターンを数えるだけでなく、答えを導くために図形的な性質を使ったり、計算処理をしたりする問題を解いておくこと。</p> <p>時間との勝負となることもあるので、時間配分の仕方を身に付けておくこと良い。</p>
問6 空間図形	<p>例年通り、立体の問題。</p> <p>(ア)～(ウ)まで、過去に出題されてきたようなパターンで、過去問に沿った練習問題を積み重ねてきた受験生には、取り組みやすい問題であった。今回の問題は2018年に出題された円錐の類題となっていた。</p>	<p>図形問題を解く上での着眼点を身に付けていく。三平方の定理や相似は使うことが多いので、まずは平面図形での解法から固めていくと良い。</p> <p>公式は全て頭に入れておくように。</p>

2023 国語-①

- ・昨年から大きな変化は見られず、難易度も変わらずといったところ。
- ・二字熟語の構成を問う問題が出題される等、知識分野に微妙に変化が見られる。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 語彙・文法	漢字の読みと書き、俳句の読解問題。漢字の問題は例年に比べやや易しく、(ア)の「頒布」を除いて漢検3級レベルからの出題だった。俳句の読解は、選択肢の吟味が難しく、昨年よりやや難易度が上がった。	漢字は漢検3級までをベースに、読みでは準2級までが出題されることがある。コツコツ覚えていこう。 選択肢に用いられる国語の頻出用語(「対照的」や「一般化」等)の意味をしっかりとおさえておこう。
問2 物語文	物語文の読解。出典は瀧羽麻子「博士の長靴」で、気象学の大学教授とその中学生の息子の心のすれ違いを、教授の教え子で息子の家庭教師をしている大学生の主人公の視点から描いたもの。 (ア)～(オ)まではすべて登場人物の心情を問う問題で、台詞や動作の描写から読み取って答える必要があった。(カ)の文章表現と主題についての問は例年よりやや易しかった。	登場人物の心情は、直接どんな気持ちか言及されるだけでなく、台詞や表情、動作の描写を通じて表現される。 そうしたポイントに注目しながら読んでいこう。
問3 論説文	論説文の読解。ハナムラチカヒロ「まなざしの革命」からの出題で、自らの見方を変え、常識を問い直す難しさを説いたもの。 (イ)では二字熟語の構成が問われ、これまでの傾向からするとやや珍しい出題となった。読解問題部分については、選択肢を容易に絞り込める問題が多く、易しかった。	選択肢を吟味する際、「言い過ぎ」の選択肢(典型的には「必ず」や「絶対」、「すべて」のような修飾語を含んだ選択肢で、本文中で筆者が述べている以上のことを言っている選択肢)は切ってよい、ということ覚えておこう。 それで2択まで絞り込める問題も多い。

2023 国語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 古文	<p>古文の読解。出典は『平家物語』の高倉天皇と紅葉に関するエピソード。</p> <p>中盤、主語のない文が出てくるものの、傍注、脚注が充実していたため、落ち着いて読めば問題なく文脈を追うことができたのではないか。</p>	<p>注釈は大事な情報源なので、しっかりと読み、内容をおさえていこう。主語がわからなくなったときは、少し前に戻って流れを確認しよう。</p> <p>「あはれ」や「あやし」といった基本的な古今異義語の理解が正答を左右する場合がある。覚えておくべき語は決して多くない。きちんと頭に入れておこう。</p> <p>神奈川県入試は全国的な入試のトレンドに沿っているので、他県入試に触れておくことも大事。</p>
問5 資料の読み取り	<p>対話文と資料、グラフの読解問題。日本的な里山のあり方と、現代における自然と人間の共生がテーマ。</p> <p>今年もグラフのデータをもとに、ごく簡単な計算を行って解く形式の問題だった。記述問題は単純な書き抜きでは対処できず、やや難しくなったものの、振興山村の人口減、それによる林野の管理の不徹底、とポイントをおさえられれば答えることができた。</p>	<p>資料から大雑把に計算を行って答えるスキルは必須なので、社会や英語などでも意識して取り組もう。</p> <p>単文記述の問題は、繰り返し練習し、文の型を覚えてしまうこと。</p>

2023 社会-①

全体的に難化した。とくに、分野横断的な問題や、受験生が初めて触れる資料を用いた問題が目立ち、ある意味で特色検査を思わせる内容となった。

要求される知識も細くなっているが、大まかな理解であっても解ける問題も多い。そうした基礎レベルの問題を落とさないことが、まず大切。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 世界地理	<p>国連の旗に用いられている、北極を中心とした正距方位図からの出題。 (エ)は歴史の知識を問う問題、(オ)は表から読み取れることとして適切でないものを選ぶ問題で、いずれも新傾向の間だった。また、(イ)では日付変更線についての問が復活した。</p> <p>昨年からの変更点も多く、難化したといえる。</p>	<p>表やグラフから計算して答える問題では、大まかに割合を用いて行う計算が頻出。</p> <p>筆算するまでもない問題も多いので、考え方に慣れておくことが大事。</p>
問2 日本地理	<p>大阪府堺市の地形図と人口ピラミッド、人口と面積の表、鉄道網の模式図、姉妹都市とその気候の一覧といった、これまでの神奈川県入試ではあまり用いられなかった資料を用いた出題だった。</p> <p>(ウ)(エ)はこれまでのパターンにない小問だったが、とくに姉妹都市の気候と特徴について答える(エ)は、世界地理で学習する世界の気候の知識を用いて考える問題で、雨温図だけでなく、その意味を言語化して把握できているかが問われた。</p>	<p>問われていること自体は基本的な内容。</p> <p>社会科で学習する様々な用語や図表・グラフについて、ただ覚えるだけでなく、その意味を言葉で説明できるようにしておくことが大事。</p>

2023 社会-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
<p>問3 近代以前の歴史</p>	<p>近代以前の日本における土地に関するできごと、という切り口で作られた問題。</p> <p>(エ)は銅鐸の絵柄からの出題というややユニークな問題だったが、問われていること自体は基本事項。</p> <p>(オ)は1776年から1845年までにおける百姓一揆の発生件数の推移、という珍しいデータを用いた問題で、江戸時代の各改革を年と合わせておさえておく必要がある問題だった。</p>	<p>受験生にとって初見のデータを用いた問題が出題されることがままあるが、そうした問題も、既習の内容を足がかりにして解けるようになっている。</p> <p>落ち着いて取り組もう。</p>
<p>問4 近代以降の歴史</p>	<p>近代以降の日本の歴史について、外交史の切り口から問う問題。</p> <p>(イ)のロシアとの国境を示した略地図を用いた問題は、樺太・千島交換条約とポーツマス条約それぞれにおける国境線の違いを知らなくては解けず、やや難しい問題だった。</p> <p>また、(オ)の年表のある期間中に起こったできごとを尋ねる問題は、例年出題されているものの、今年は「戦前・戦中」「戦後」といった大まかな時系列の把握では答えられない、細かい年レベルでの理解が要求され、難しくなった。</p>	<p>問3と同様、要求される知識のレベルが高い問題が散見される。</p> <p>この傾向が続くのかはわからないが、これまで以上に年表の学習を徹底する必要がある。</p>

2023 社会-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 公民①	<p>公民経済分野の問題。</p> <p>(イ)は、労働基準法に定められた週労働時間が40時間であることを知らなくては解けない問題で、難しかった。</p> <p>(オ)は社会保障費の給付額と負担額、所得の1965年と2019年の比較表というデータから考える問題で、初見のデータをうまく処理する必要があった。</p>	<p>公民分野は、教科書やテキストでの学習だけでなく、実生活での社会への興味関心の持ち方も大事。</p> <p>日頃から、ニュースや社会のあり方に関心を向けていこう。</p>
問6 公民②	<p>公民政治分野の問題。</p> <p>(ア)は近代以前の文化史の問題で、分野を超えた出題となった。</p> <p>(ウ)では公共の福祉による人権の制限の例として、感染症の感染が確認された患者が出され、現代的な内容だった。</p> <p>(エ)は参議院の緊急集会についての知識が必要で、やはり聞かれる内容が細かくなっている。</p>	<p>政治の仕組みは、人権という基本ルールに沿うように作られているので、相互の関係性をおさえると把握しやすくなる。</p> <p>暗記だけでなく、有機的な理解を心がけよう。</p>
問7 分野横断型	<p>沖縄県についての調べ学習というテーマで作られた分野横断的な大問。</p> <p>(エ)は、沖縄における米軍基地について考える問題で、昨今の防衛費増を巡る議論ともリンクした内容だった。</p>	<p>とくに問5から問7では、現代的な問題が取り扱われることも多い。</p> <p>基本となる教科書・テキストの学習に加え、ニュースにも関心を持ち、その背景を知ることが意識しよう。</p>

2023 理科-①

- ・例年通り、問1～問8の出題で物理、化学、生物、地学の順番での出題となった。またここ数年で頻出となっている、「実験から分かること」や「どんな実験をすれば分かるか」といった、思考力の求められる問題もあった。
- ・昨年の入試では、消化酵素のはたらきを調べるあまり見かけない実験の問題が出題された。今年は入試問題ではよく扱われる実験ばかりで一見解きやすそうであるが、その中に思考力を問う問題が含まれており難易度を引き上げる形となった。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 物理小問	物理分野での出題は、(ア)で音、(イ)では電力、(ウ)では作用・反作用についてのものであった。(イ)では「たこ足配線」を例に電流の大きさを求めるもので、より実生活に近い事柄での出題となった。(ウ)は磁力を含む作用・反作用の出題で、あまり見かけないパターンの出題であった。	基本的な知識を身に付けておくこと。
問2 化学小問	(ア)ではアンモニアの性質を問う問題。単なる知識ではなく、実験から分かる性質を答える問題であった。(イ)は質量パーセント濃度の計算問題。過去にはいくつかの溶解度のグラフを見て答えを導くような難度の高いものが出題されたが、今回は硝酸カリウム1つのみであった。(ウ)は酸とアルカリを混ぜたときの、イオンの量の変化を問う問題。状況を丁寧に把握すれば解きやすかった。	過去の神奈川県入試の問題で触れられている単元はもちろん、全国入試でよく出題される基本問題を解き、理解を深めていくこと。
問3 生物小問	(ア)は顕微鏡に関する問題。これまで実験器具の使い方を問うものが多かったが、今年は倍率を変えたときの視野の変化を答えるもので基本的な内容であった。(イ)はからだにある器官のはたらきを答える問題。基本的な知識を使って解けるものであったが、答えの選択肢が9つもあった。(ウ)は染色体の組み合わせに関する問題、こちらも基本に忠実に組み合わせを考えれば、答えを導きやすかった。	1つの知識のみで解ける問題は少なく、いくつかの知識を使って解くものが多いため、正確に覚えておくように。
問4 地学小問	(ア)は地震の揺れた時刻を地図にまとめたものから、地震のゆれの大きさを推測する問題であった。(イ)は飽和水蒸気量のグラフから湿度のグラフを選ぶ問題。(ウ)では春分の日太陽の南中高度に関する問題。いくつかの知識が必要であったが、公式など覚えていれば答えを出しやすかった。	公式はすべて使いこなせるようにし、様々な角度からの練習問題を行っていくとよい。

2023 理科-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 磁界と力学	中2の電流と磁界の単元と中3の力学的エネルギーの融合問題であった。磁界の向きや力の向きを答えるものは基本であったが、(エ)では電圧をV、重さをW、距離をL、高さをH、時間をt、電流をIとしてエネルギー変換効率を文字式で表す問題で、受験生にとっては解きなれていない形での出題で、エネルギーの本質的な理解がないと分かりにくいものであった。	各問ではメインとなる実験や観察に関するところからの出題となっている。
問6 酸化と還元	酸化銅と炭素を用いた酸化還元反応の問題。実験の内容は典型的なものであったが、問題と同じ反応が見られる実験を選ぶなど、幅広い知識が必要であった。(エ)では酸化鉄と一酸化炭素の化学反応式の出題があり、初めて見る反応式で戸惑った生徒もいたはずである。昨年一昨年出題された化学反応式に関する問題が今年も出題された。	資料を読み取ったり、考察したりする前に基礎知識で答えを導けるものがある。まずは基礎を身につけ、丸暗記ではなく原理をおさえていく必要がある。
問7 蒸散と光合成	植物の葉にワセリンを塗り蒸散の様子を調べる観察と、日光を当てるものと暗室に置くものを分けて光合成のはたらきを調べる観察の2つが合わさった問題。(ア)と(イ)は基本知識で解け、入試で良く出る問題の典型であった。(ウ)や(エ)では、考察を導くためにはどうするか、実験から考察できることは何か、を問う問題が出題された。毎年、この観点での出題はあるので、今後も要注意な傾向である。	また、実験から得られる考察や、この結果を生み出すためにはどんな実験が必要か、というような思考力が必要な問題が出題されているため、過去問や全国入試問題にも触れて練習していくと良い。
問8 地層	中3の天体や中2の天気分野の出題が続いてきたが、今年の中1の地層に関する出題となった。基本的な知識で解ける問題が多く、問5から問7の出題と比べると解きやすい。(エ)の柱状図の問題も基本に忠実に考えれば解ける問題であった。	